

主婦の起業奮闘記

人材派遣や保育など幅広い事業を展開している生活総合支援サービス会社「クラッシー」(徳島市)社長の植田貴世子さん(54)が、女性の立場から起業した経緯などをつづった「あなたの街のコンシェルジュ」が西日本出版社から出版された。植田さんは「私たちのサービスマインドが多くの人に伝われば」と全国の主婦らの起業を応援している。



出版した「あなたの街のコンシェルジュ」を手にする植田さん

徳島・植田さん出版

80ページ。1冊800円(税抜き)。内容は「女性が生き方を考えるとき」「主婦からの起業」「新しい時代を創る」の3部構成。

起業したきっかけや経済至上主義に対する疑問、女性であることのすばらしさ、家事サービスの将来性などを分かりやすく紹介している。

植田さんは徳島市出身。実践女子大を卒業後、神戸で就職し、キャリアアップのため1982年に渡米。滞在中に息子を出産し、85年に帰国した際に、女性の立場から起業を決意した。当時、米国では規制緩和で大

家事、子育て…一歩踏み出して

リストラが行われており、起業が花盛りだった。「目の当たりにして、私にも何かできるかもしれないとチャレンジ精神でいっぱいだった」と振り返る。「女性であること」「母親であること」「英語ができること」の三つを生かそうと、英語教育と保育サービスを一体化させた会社「ステラ」を創業した。

しかし、当時は「子育てまでビジネスに成り果てたのか」という批判や、「会社に来てまで子育てなど語れるか」と相手にしてもらえないことも多かったという。

「じだんだを踏む思いだったが、私の営業活動が社会を変えていく一端を担っているのだと信じてやってきた。最初の一歩

がなければ何も変わらない」。85年に男女雇用機会均等法ができ、社会の流れも変わりがつあった。「ステラ」は徐々に成長し、97年には家事代行を担う人材派遣サービスの「クラッシー」を設立。2005年には「ステラ」と「クラッシー」の両社を統合して、「生活総合支援企業・クラッシー」へと進化させた。

「女性がもっと社会に出て積極的に主張してほしい。そうすれば社会は柔らかく幸せなものになるはず」と植田さん。

「『あなたの街の』は、読む人によって受け止め方は違うだろうが、うんうんと共感してほしい。会社の規模の拡大ではなく、『思い』を拡大していきたい」と話している。